# 植栽環境に適した樹種の選抜に関する研究

【背景と目的】

都内の再造林地において、スギ褐色葉枯病と考えられる集団葉枯症の被害が発生した。この病気は立地条件や土壌性質との関連が示唆されており、被害が発生しやすい立地・土壌の把握や樹種転換により被害を防ぐことができる可能性がある。そこで、樹種転換の候補樹種を検討するとともに、被害地の立地条件・土壌性質など被害地の特徴を明らかにし、防除につなげる。

【研究概要】

（1）被害地の立地条件の把握と予測

多摩地域のスギ褐色葉枯病は尾根地形に多く、激害地は土壌水分が常に低く、降雨後も保水力が弱かった。表層土は強い撥水性を示し、スギは水ストレス状態を受けており、スギの生育不適地と考えられた。スギ生育不適の指標植物であるアセビの分布を解析し、地形要因（平均曲率が最も影響大）から「スギ生育不適地予測図」を作成した。被害地は予測図の不適地と一致し、樹高成長も低かったため、実務に使用できる。

（2）スギ代替樹種の選抜

スギ褐色葉枯病被害地の林床およびスギ生育不適地の天然生林における植生調査から、高木ではナラ類（コナラ、ミズナラ）、ヤマザクラ等のサクラ類およびモミ、小高木および低木ではアオハダ、リョウブ、イヌツゲ、ヒサカキ、アセビ等がスギの代替として造林できる可能性がある。

（3）選抜した樹種の種子収量、発芽率、植栽試験

ヤマザクラは、成木3本から約1万粒採取できたが、発芽率は低く、保管方法や発芽促進処理の改善が必要であった。植栽試験では、コナラとヤマザクラがスギ生育不適地においても良好な樹高成長を示し、イロハモミジは劣っていた。また、カエデ類ではイロハモミジよりもエンコウカエデの方が初期成長に優れる可能性が示唆された。